



## 安全データシート

Copyright, 2024, 3M Company. All right reserved. 本情報は、3M社の製品を適切にご使用頂くために作成したものです。複製および/またはダウンロードをする場合には、以下の条件をお守り下さい。(1) 3M社から書面による事前承認を得ることなく情報を変更したり、一部を抜粋して使用しないで下さい。(2) 本情報を営利目的で転売または配布をしないで下さい。

SDS番号	21-8935-5	版	5.00
発行日	2024/03/05	前発行日	2021/11/11

この安全データシートはJIS Z7253:2019に対応しています。

### 1. 化学品及び会社情報

#### 1.1. 化学品の名称

3M 瞬間消臭スプレー

#### 3M スtockナンバー

JN-3301-0586-5

7010637567

#### 1.2. 推奨用途及び使用上の制限

##### 推奨用途

コマーシャルケア

#### 1.3. 会社情報

供給者	スリーエム ジャパン株式会社
所在地	本社 東京都品川区北品川6-7-29
担当部門	コマーシャルブランディング&トランスポートーション技術部
電話番号	0570-012-388

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

エアゾール： 区分1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性： 区分2B

特定標的臓器毒性（単回ばく露）： 区分3

#### GHSラベル要素

注意喚起語

危険

シンボル

炎 感嘆符

ピクトグラム



#### 危険有害性情報

H222	極めて可燃性の高いエアゾール
H229	高圧容器：熱すると破裂のおそれ
H320	眼刺激
H336	眠気又はめまいのおそれ

#### 注意書き

#### 安全対策

P210A	熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P211	裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
P251	使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
P261	粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
P271	野外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
P264	取扱後はよく洗うこと。

#### 応急措置

P304 + P340	吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい状態を確保すること。
P305 + P351 + P338	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P337 + P313	眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。
P312	気分が悪いときは医師に連絡すること。

#### 保管

P410 + P412	日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。
P403 + P233	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
P405	施錠して保管すること。

#### 廃棄

P501	内容物／容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。
------	------------------------------------

#### その他の有害性

凍傷のおそれ。 故意に濃縮した誤使用や、成分を吸引するような使用法は、健康に有害で致死的な場合がある。

### 3. 組成及び成分情報

この製品は混合物です。

成分	CAS番号	重量%
水	7732-18-5	60 - 70
ジメチルエーテル	115-10-6	30 - 40
二酸化塩素	10049-04-4	1.0

## 4. 応急措置

### 応急措置

#### 吸入した場合

新鮮な空気的环境下に移動させる。気分がすぐれない場合は医療機関を受診する。

#### 皮膚に付着した場合

凍った部分をぬるま湯でとくこと。受傷部はこすらないこと。医療機関を受診する。

#### 眼に入った場合

直ちに多量の水で洗浄する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。すぎ続ける。直ちに医療機関を受診する。

#### 飲み込んだ場合

口をゆすぐ。気分が悪い時は医療機関を受診する。

#### 予想できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

重大な症状や影響はない。毒物学的影響に関する情報はセクション11を参照する。

#### 応急措置を要する者の保護に必要な注意事項

適用しない。

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

火災の場合：消火するために 粉末消火剤または炭酸ガスなどの可燃性液体および可燃性固体用消火薬剤を使用すること。

### 使ってはならない消火剤

情報なし。

### 特有の危険有害性

火災の熱で密封された容器内の圧力が増し、爆発するおそれがある。

### 消火作業員の保護

消火作業員への特別な防御措置は予想されない。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

区域から退避させること。熱／火花／裸火／高温の物体などの着火源から遠ざけること。禁煙。火花を発生させない工具を使用すること。新鮮な空気での場所を換気する。大量に漏洩した場合、あるいは狭小な場所で漏洩した場合は、安全衛生手順にしたがって、蒸気の拡散、排出のための強制換気を行う。警告！モータ

一は着火源になる。漏洩個所に発生している引火性のガスや蒸気の着火源となり、燃焼・爆発を起こす可能性がある。物理的有害性、健康有害性、呼吸保護、換気、個人防護については本SDSの他の項目を参照。

#### 環境に対する注意事項

環境への放出を避けること。

#### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

可能であれば漏洩した容器をシールする。漏洩容器を換気フードに置いて換気する。必要に応じて、漏洩容器や内容物の収納に適した容器が準備できるまで屋外の不透性床の上で保管する。漏洩箇所を泡消火薬剤で覆う。大量に漏洩した場合、あるいは狭小な場所で漏洩した場合は、安全衛生手順にしたがって、蒸気の拡散、排出のための強制換気を行う。ベントナイト、バーミキュライトあるいは市販の無機吸収剤を用い、漏洩物の周囲から内側に向けて覆う。漏洩箇所が乾燥するまで十分に吸収剤を混ぜ合わせる。出来る限り多くの漏洩物を防爆仕様の道具を使って回収する。残さを清掃する。容器を密封する。回収した物質は、国内外の法令や規則にしたがって、できるだけ早く廃棄する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

#### 取扱い

眼への接触を避ける。工業用又は業務用。消費者用用途への販売、使用禁止。密閉された換気不良の場所で使用しないこと。熱/火花/裸火/高温の物体などの着火源から遠ざけること。禁煙。裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。眼、皮膚、衣類につけないこと。この製品を使用するとき、飲食又は喫煙をしないこと。取扱後はよく洗うこと。

#### 保管

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。日光から遮断し、40℃以上の温度にばく露しないこと。熱から離して保管する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

#### 管理項目

#### 許容濃度及び管理濃度

セクション3に表示されている成分名が、以下の表に見当たらない場合は、当該成分についての適切な作業時の許容濃度または管理濃度がないことを示している。

成分	CAS番号	政府機関	許容濃度または管理濃度	備考
二酸化塩素	10049-04-4	ACGIH	CEIL:0.1 ppm	
ジメチルエーテル	115-10-6	AIHA	TWA:1880 mg/m <sup>3</sup> (1000 ppm)	

ACGIH : American Conference of Governmental Industrial Hygienists

AIHA : American Industrial Hygiene Association

ISHL : 労働安全衛生法作業環境評価基準

ISHL(濃度基準値) : 労働安全衛生法厚生労働大臣が定める濃度の基準

JSOH OELs : 日本産業衛生学会許容濃度

TWA : 時間加重平均値

STEL : 短時間ばく露限界値

ppm : 百万分率

mg/m<sup>3</sup> : ミリグラム/立方メートル

CEIL : 天井値

#### ばく露防止策

**設備対策**

空気中の酸素が減少した場所に、とどまらないこと。 空気中の有害物質をそれぞれの許容濃度以下に制御し、粉じん、フェーム、ガス、ミスト、スプレーをコントロールするためにも、一般的な希釈換気あるいは局排換気を行う。換気が適切に実施できない場合は、呼吸保護具を使用する。 加工処理温度が沸点以上になる場合には、最小制御風速が 0.5 m/sec の局排装置を設置すべきである。

**保護具****眼の保護具**

ばく露評価結果に準じた眼・顔の保護具を選択・使用する。下記の眼・顔の保護具を推奨する。

間接式換気ゴーグル

**皮膚及び身体の保護具**

ばく露評価に準じた皮膚接触を防止するために、関連した法令で認められた保護手袋・保護衣を選択・使用する。 注：保護性を高めるために樹脂ラミネートされた手袋にニトリルゴム製の手袋を重ねてもよい。

推奨される手袋の材質：樹脂ラミネート。

**呼吸用保護具**

ばく露評価によって保護マスクが必要と判断される場合には、適切なものを使用する。ばく露評価結果に基づいて以下のものから保護マスクを選択する：

半面形もしくは全面形のろ過材付き有機ガス用防毒マスク

半面形もしくは全面形面体の送気マスク(エアラインマスク)

特殊な利用に際して、マスクの適合性に疑問があれば、保護マスクのメーカーに相談する。

**熱危険性**

耐熱手袋及び保護面又は保護眼鏡を着用すること。

**9. 物理的及び化学的性質****基本的な物理・化学的性質**

外観	液体
物理的状态:	エアゾール
色	無色透明
臭い	無臭
臭いの閾値	データはない。
pH	適用しない
融点・凝固点	-141.5 °C
沸点, 初留点及び沸騰範囲	-24.8 °C
引火点	適用しない
蒸発速度	データはない。
引火性(固体、ガス)	適用しない
燃焼点(下限)	データはない。
燃焼点(上限)	データはない。

蒸気圧	410,000 Pa
蒸気密度/相対蒸気密度	データはない。
密度	0.66 g/cm <sup>3</sup>
比重	1
溶解度	7 g/100 ml
溶解度（水以外）	データはない。
n-オクタノール/水分分配係数	データはない。
発火点	350 °C
分解温度	データはない。
粘度/動粘度	データはない。
揮発性有機化合物	データはない。
揮発分	データはない。
水と規制除外の溶剤を除いた揮発性有機化合物 (JIS-GHSの要求項目ではない)	データはない。

#### ナノパーティクル

この製品はナノパーティクルを含有しない。

## 10. 安定性及び反応性

#### 反応性

この物質は、特殊条件下では薬品と反応する可能性がある。このセクションの他の項目を参照する。

#### 化学的安定性

安定。

#### 危険有害反応の可能性

有害な重合反応は起こらない。

#### 避けるべき条件

熱。

高せん断・高温時

火花及び／ないし炎

#### 混触危険物質

強酸

強酸化性物質

#### 危険有害な分解物

##### 物質

ホルムアルデヒド

一酸化炭素

二酸化炭素

##### 条件

特段の規定はない。

特段の規定はない。

特段の規定はない。

## 11. 有害性情報

セクション2で区分表示が義務付けられている特殊な成分を含有する場合には、下記の情報と一致しない場合があります。また、成分の含有量が表示義務となる値以下の場合、成分のばく露が予想されない場合、あるいは

製品全体を考慮した場合に、含有成分の毒性情報が、製品の区分、ばく露時の兆候や症状に一致しないことがあります。

#### 毒性学的影響に関する情報

##### ばく露による症状

組成の試験結果や情報より、下記の健康影響が考えられる。

##### 吸入した場合

単純性窒息：心拍数の増加、切迫呼吸、眠気、頭痛、協調不能、判断力の変化、吐き気、嘔吐、昏睡、発作、死亡などの症状。 気道刺激：咳、くしゃみ、鼻水、頭痛、鼻と喉の痛みなどの症状。 その他、以下に記載する健康影響を発現させることがある。

##### 皮膚に付着した場合

凍傷：強い痛み、皮膚の退色および組織破壊などの症状。 軽度の皮膚刺激：局所的な発赤、腫脹、かゆみ、乾燥などの症状。

##### 眼に入った場合

凍傷：強い痛み、角膜のくもり、発赤、腫脹、失明などの症状。 中程度の眼の刺激：発赤、腫脹、痛み、流涙、眼のかすみなどの症状。

##### 飲み込んだ場合

胃腸への刺激：腹痛、胃痛、吐き気、嘔吐、下痢などの症状。

#### その他健康影響情報

##### 特定標的臓器毒性、単回ばく露

中枢神経機能の抑制：頭痛、目眩感、眠気、協調障害、吐き気、反応時間遅延、言語障害、目眩及び意識喪失などの症状。

#### 毒性データ

セクション3に開示されている化学成分で以下に情報が無い場合は、そのエンドポイントに対して利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無い場合があります。

#### 急性毒性

名称	経路	生物種	値又は判定結果
製品全体	経口摂取		利用できるデータが無い：ATEで計算。5,000 mg/kg
ジメチルエーテル	吸入ーガス (4時間)	ラット	LC50 164,000 ppm
二酸化塩素	皮膚		推定値 > 5,000 mg/kg
二酸化塩素	吸入ー粉塵 /ミスト		推定値 > 12.5 mg/l
二酸化塩素	吸入ー蒸気		推定値 > 50 mg/l
二酸化塩素	経口摂取		推定値 50 - 300 mg/kg

ATE=推定急性毒性

#### 皮膚腐食性／刺激性

セクション3に開示されている化学成分に対しては、利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無

い。

#### 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

セクション3に開示されている化学成分に対しては、利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無い。

#### 呼吸器感作性または皮膚感作性

##### 皮膚感作性

セクション3に開示されている化学成分に対しては、利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無い。

##### 呼吸器感作性

セクション3に開示されている化学成分に対しては、利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無い。

#### 生殖細胞変異原性

名称	経路	値又は判定結果
ジメチルエーテル	In vitro	変異原性なし
ジメチルエーテル	In vivo	変異原性なし

#### 発がん性

名称	経路	生物種	値又は判定結果
ジメチルエーテル	吸入した場合	ラット	発がん性なし

#### 生殖毒性

##### 生殖発生影響

名称	経路	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
ジメチルエーテル	吸入した場合	発生殖毒性区分に該当しない。	ラット	NOAEL 40,000 ppm	器官発生期

#### 標的臓器

##### 特定標的臓器毒性、単回ばく露

名称	経路	標的臓器	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
ジメチルエーテル	吸入した場合	中枢神経系の抑制	眠気又はめまいのおそれ。	ラット	LOAEL 10,000 ppm	30分
ジメチルエーテル	吸入した場合	心臓感作性	陽性データはあるが、分類には不十分。	イヌ	NOAEL 100,000 ppm	5分

##### 特定標的臓器毒性、反復ばく露

名称	経路	標的臓器	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
ジメチルエーテル	吸入した場合	造血器系	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 25,000 ppm	2年
ジメチルエーテル	吸入した場合	肝臓	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 20,000 ppm	30週

#### 誤えん有害性

セクション3に開示されている化学成分に対しては、利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無い。



い。

製品及び成分に関する追加の毒性情報が必要な場合には、本SDSの1ページに記載した住所、電話番号にご連絡ください。

## 12. 環境影響情報

セクション2で区分表示が義務付けられている特殊な成分を含有する場合には、下記の情報と一致しないことがあります。セクション2の分類に関する追加情報が必要な場合は、弊社にお問い合わせください。また、成分の環境中での運命及び有害性は、成分の含有が表示義務となる値以下の場合、成分のばく露が予想されない場合、あるいは製品全体を考慮した場合に、この項の内容と一致しないことがあります。

### 生態毒性

#### 水生環境有害性 短期（急性）

GHS分類では水生生物への急性毒性はない。

#### 水生環境有害性 長期（慢性）

GHS分類では水生生物への慢性毒性はない。

製品での試験データは無い。

材料	CAS番号	生物種	種類	ばく露	テストエンドポイント	試験結果
ジメチルエーテル	115-10-6	バクテリア	実験	該当なし	EC10	>1,600 mg/l
ジメチルエーテル	115-10-6	グッピー	実験	96 時間	LC50	>4,100 mg/l
ジメチルエーテル	115-10-6	ミジンコ	実験	48 時間	EC50	>4,400 mg/l
二酸化塩素	10049-04-4	該当なし	分類にデータが利用できない、あるいは不足している。	該当なし	該当なし	該当なし

### 残留性・分解性

材料	CAS番号	試験の種類	期間	試験の種類	試験結果	プロトコル
ジメチルエーテル	115-10-6	実験 生分解性	28 日	生物学的酸素要求量	5 %BOD/ThOD	OECD 301D - クローズドボトル法
ジメチルエーテル	115-10-6	実験 光分解		光分解半減期（空气中）	12.4 日 (t 1/2)	
二酸化塩素	10049-04-4	データ不足	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし

### 生体蓄積性

材料	CAS番号	試験の種類	期間	試験の種類	試験結果	プロトコル
ジメチルエー	115-10-6	分類にデー	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし

### 3M 瞬間消臭スプレー

テル		タが利用できない、あるいは不足している。				
二酸化塩素	10049-04-4	分類にデータが利用できない、あるいは不足している。	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし

#### 土壤中の移動性

データはない。

#### オゾン層への有害性

データはない。

## 13. 廃棄上の注意

#### 廃棄方法

関係法令に従って、産業廃棄物として自社で処分するか産業廃棄物処理業者に委託して処分する。

## 14. 輸送上の注意

国連番号及び品名： 1950 エアゾール

輸送分類 (IMO) : 2.1 引火性ガス

輸送分類 (IATA) : 2.1 引火性ガス

#### 国内規制がある場合の規制情報

取り扱い及び保管上の注意の項の記載による他、船舶安全法などの法令の定めるところに従う。

## 15. 適用法令

#### 国内法規制及び関連情報

##### 日本国内法規制 (主な適用法令)

労働安全衛生法：危険性又は有害性等を調査(リスクアセスメント)すべき物 (法第 57 条の 3)

労働安全衛生法：施行令 18 条の 2 名称等を通知すべき有害物

労働安全衛生法：施行令 18 条有害物質 (表示物質)

高圧ガス保安法：通商産業省告示 139 号 (平成 9 年 3 月 24 日) エアゾール

船舶安全法、航空法：高圧ガス

労働安全衛生法：施行令別表第一 危険物

#### 主な法規制物質

労働安全衛生法：通知・リスクアセスメント・表示義務対象物質

成分	法律又は政令名称	2024年3月31日まで	2024年4月1日以降
二酸化塩素	二酸化塩素	該当	該当

## 16. その他の情報

### 改訂情報

- セクション1：担当部門の電話番号 情報修正.
- セクション1：担当部門名 情報修正.
- セクション1：製品用途 情報の追加.
- セクション1：SAP Material Number 情報の追加.
- セクション2：注意書き - 保管 情報修正.
- セクション3：成分表 情報修正.
- セクション5：火災時情報（消火剤） 情報修正.
- セクション7：貯蔵情報 情報修正.
- セクション8：mg/m<sup>3</sup> 記号 情報の追加.
- セクション8：OEL登録機関の説明 情報修正.
- セクション8：保護具 - 眼 情報修正.
- セクション8：ppm 記号 情報の追加.
- セクション8：呼吸器保護 - 推奨する呼吸保護具の情報 情報修正.
- セクション9：燃焼性（固体、ガス）情報 情報修正.
- セクション9：引火点情報 情報修正.
- セクション9：pH情報 情報修正.
- セクション10：避けるべき条件 情報修正.
- セクション11：生殖毒性の表 情報修正.
- セクション12：成分生態毒性情報 情報修正.
- セクション12：残留性および分解性の情報 情報修正.
- セクション15：労働安全衛生法の表 情報の追加.
- セクション15：法規名 - 表 情報の削除.
- セクション15：適用法規のステートメント 情報修正.

免責事項：この安全データシート（SDS）の情報は、発行時における当社の知見に基づき正確であると考えていますが、当社は、その使用から生じる損失、損害または傷害に関する賠償責任を引き受けるものではありません。

（法令で要求される場合を除く）本SDSの記載内容は、記載されている範囲外の使用、あるいは他の物質と組み合わせでの使用では効力を持ちません。これらの理由から、お客様がご自身の用途に製品が適合しているかどうかをご自身で評価することが重要です。加えて、本安全データシートは安全衛生情報もお伝えしております。日本国へ本製品を輸入されるお客様は、製品の登録・届出、物質量の監視、想定される物質の登録・届出を含む（これらに限定されるものではありません）適用される全ての法的要求について責任を負います。

3MジャパングループのSDSは日本のウェブサイトから入手できます。